学科TOPICS

～出会い・発見・学び。
学生, 教員双方の視点から授業内容をご紹介します。～

ファウンデーションコースⅡ

英語に親しむ一つの手段として

ことばと文化学科　1年
内山　芳枝さん
（社会人入学）

ファウンデーションコースⅡは、英語に親しむ一つの手段としての取り組みです。先生から与えられるスキット（英語劇）を、楽しみながら演じられる時間です。内容は、その都度変わり、組むメンバーも異なります。二人で演じたり、また、グループで取り組んだりします。そして動物になったり、また、色々な人間関係も演じたりします。

クラスメートとコミュニケーションをとりながら、舞台に立つ位置や声の大きさ・顔の表情・動作等について、いかに観客（クラスメート）にアピールできるかを話し合い工夫します。発表後は、クラスメートから意見や感想を聞いて参考にし、次回に繋げていきます。

英語に慣れ親しむための方法は、ふだんの自分とは異なる個性が演じられるために、その楽しさが心の発散にもなっています。

英語生活を毎回擬似体験

ことばと文化学科　講師
A.J.ダニエルズ

This course is designed to allow students to use fully and confidently the English they have learned in junior and high schools, through drama-based activities. In natural everyday situations, they will learn not only to speak English to, but also to act in English, in order "live in English". Even a shy student will soon be speaking and acting in English unawares.

この授業では、高校までに習った英語をドラマ仕立ての アクティビティを通して、フルにそして自信を持って使えるようにします。自然な日常生活の設定の中で、英語を話すだけでなく体も使って「英語で普通に生活することを身に付けていきます。シャイな人もだんだんと引き込まれて、意識せずに英語で楽しく行動するようになります。

こども学フィールドワーク

こどもの笑顔を通して得られる達成感

こども学科　1年
永野　由佳さん
（志布志高校出身）

こども学フィールドワークでは、グループに分かれて講座の内容を考え、準備・運営しました。講座を企画する際は、どのようにしたらこども達に分かりやすく伝えることができるのかや、楽しんでもらえるかなどをイメージするのが難しく大変でした。しかし、学生同士で意見を出し合い、協力しながら、納得のいく講座を作り上げることができました。また、本番では何が起こるか分からないので不安でしたが、こども達の笑顔を見ることができてとても嬉しかったです。私達自身も直接こどもと関わることで、「この年齢のこどもにはどのような課題がふさわしいか」「どのような対応の仕方が良いか」などたくさんのことを学べました。

この講座を通して、全員で一つのものを作り上げる大変さや達成感を味わうことができました。この経験を生かして、これからの実習を頑張っていこうと思います。

人との関わりの中で育む実践力

こども学科　講師
石村　華代

こども学フィールドワークは、学内と学外の両方で活動を行います。このうち学内活動では、年4回の「こども講座」を学生が主体となって運営します。こども講座は、2～8歳までのこどもとその保護者を対象としており、今年度は「音楽であそぼう」「つくってあそぼう」「からだを動かすあそび」「数字であそぼう」が行われました。

学生はグループに分かれて2つの講座に関わり、教員と共に講座をデザインします。遊びの内容を考えたり、司会進行を企画したり、壁面製作をしたり、おみやげを作ったり、様々な事前の準備を1ヶ月以上前から行います。また当日は、司会進行はもちろんのこと、親子と関わったり、駐車場の案内をしたりします。学生は途中いくつかの問題に直面しますが、他の学生と話し合う中でそれを乗り越えていきます。こどもと接したり、人前で話したり、企画をしたりする経験が、2年次以降の保育実習や教育実習などでも活かされているようです。

助産業務管理

助産院での実習を通して

看護学科　4年
田代　加那子さん
（川内高校出身）

助産業務管理は、助産業務管理者としては出産の安全性を高くし、出産時の安全性を高くし、出産時の安産ケアのリーダーシップやマネージメントについて学ぶ授業です。この授業は学内講義だけでなく、鹿児島中央助産院や春日助産院、助産婦かごしま十日会訪問など、実際の現場での実習もあります。

特に印象的だったのは、助産院での実習です。実習に行った助産院は、とても温かい雰囲気で、畳の広間やオープンキッチンスタイルの明るい食事ルーム、そして分娩台のない安らぎの誕生室などがありました。助産院での実習を通して、妊娠期から体と心の調和を図り健康レベルを上げることは出産の安全性を高くし、出産時の安産ケアにつながることができ、「満足なお産」「幸せなお産」を体験することでその後の育児や家族関係により良い影響を与えるということを学びました。

看護職の中で唯一開業できる助産師として、管理の方法を学ぶと同時に、助産観を深めることができました。女性が本来持っている「産む力」を最大限に引き出し、母親主体の自然なお産をサポートできる助産師になりたいです。

管理の原点は、「真の助産」を問う心

看護学科　講師
白水　美保

現在、産科医師不足や病院の産科閉鎖に伴い、院内助産院・助産師外来開設など、社会が求める助産師のニーズは以前よりさらに高くなってきました。それらを遂行する手法を学ぶのが「助産業務管理」という科目です。助産業務管理の内容は、安全を考慮したケア内容・人的・経営の管理（マネージメント）が大柱となります。私は、管理が究極守るべきところは「いのち」、そして大切にしてあるところは「こころ」であると考えています。誤った管理を行うと容易にいのちが奪われ、また、「こころ」を忘却し、管理意識ばかりに走ると産婦の満足するお産はできません。特に生命と寄り添うこの業務の開始には、倫理的視点が非常に大切です。そのため、本学の助産教育内容に行する科目で、「助産学生69名」の管理は、本学の助産学生を対象としています。助産学生69名、彼女たちが学生時代の目に映るものは全て本学のサポートしたいと思っています。これからの産科事情はもっと厳しく変化するとも予測されます。しかし、どのような時代にあっても、真の助産とは何か常に自分自身に問い、悟る心があれば、きっとそこから真の管理が生まれてくると信じています。

栄養教育論実習Ⅱ

栄養教育論実習を通して

健康栄養学科　2年
廣森　智美さん
（樟南高校出身）

10月から後期が始まりました。「栄養教育論実習Ⅱ」の授業が始まりました。私の班は妊婦を対象として、栄養教育プログラムを作成し実施しました。グループの全員で計画を立てることから始まり、対象者の設定、資料の作成などロールプレイングの準備は全て自分たちで行います。限られた時間の中で全員が意見を出し、指摘しあいながら仕上げていくことで、妊婦に必要な情報と共にグループワークの進め方を学ぶことができました。ロールプレイング後は先生とクラスのみんなから評価をいただき、様々な角度からの客観的な意見を得ることで、新たな発見に繋がりました。管理栄養士の立場に立って、やりがいを感じることのできるとても有意義な実習だったと思います。

あらゆる世代の人に食べることの大切さを伝えていける管理栄養士になるために、この授業で得たことを吸収し、さらにステップアップしていきたいです。

栄養教育のできる管理栄養士を目指して

健康栄養学科　講師
今村　佳代子

食や栄養に関する情報はたくさんあるのに、生活習慣病の患者数は増加している今、人の食行動を変えることのできる、つまり栄養教育のできる、管理栄養士が求められています。そこで健康栄養学科では、栄養教育の実施を目指して人の行動特性を理解し、ノウハウを学び、マネージメント力を身に付けるための講義、実習を開講しております。「栄養教育論実習Ⅱ」はその集大成とも言える授業です。

実習は、4～5名のグループ毎に世代別、病態別の対象者を設定するところから始まります。学生は対象者の情報収集、問題点抽出を経て、栄養教育計画を決めていきます。さらに、本番では各グループの学生が管理栄養士役となり、学習者役をロールプレイングを実施します。学生は、今までに習った多くの知識を人に分かりやすく伝えるためにはどうしたら良いのか…管理栄養士にとって尽きない悩みなどを通して体験することになりますが、毎年、学生達の努力とアイデアに刺激を受け、隠れた才能を発見することのできる楽しみな時間となっています。

大学院TOPICS

大学院主催公開講座

大学院
人間科学研究科
講師　石井　宏祐

本学大学院人間科学研究科心理臨床学専攻は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成指定大学院（第1種）として、8年目を迎えています。

昨年同様、本年度も大学祭の日程にあわせ、大学院主催公開講座を開催しました。本学大学院では、その特色としてトラウマケアにも特に重点をおいてきました。そこで今回の公開講座では、自然災害や人為災害など様々な災害に伴う人々の"こころ"に焦点を当て、2つのミニレクチャー（各40分の講義）を開講しました。『さまざまな災害に伴うこどもの"こころ"～スクール・カウンセリングの立場から～』『さまざまな災害に伴う大人の"こころ"～トラウマ・カウンセリングの立場から～』の2つです。また、大学院生による大学院紹介の時間も設けました。大学院生の幅広い学びの一部を知っていただけたのではないかと思います。

多くの方にご参加いただき、大変ご好評いただきました。来年度も続けてまいります。

大学院主催公開講座の様子

研究室探訪

大学院
人間科学研究科
教授　吉田　ゆり

近年、子育て困難や不安、虐待など親がこどもを養育する際に起こる様々な困難、発達に障害のあるこどもや養育要因による育ちのゆがみなどがクローズアップされています。これらは現代社会の抱える課題や現場の様々な諸問題と絡み合って幅輳化し、単一的な原因究明や関わりでは解決が見込めないともいわれています。この中で、心理的支援へのニーズが高まり、子育て支援などの言葉が頻繁に使われるようになりました。

私の研究室では、専門の発達臨床心理学から、こうした「親の育ち」と「こどもの育ち」に焦点を当て、広い意味での子育て支援における臨床心理士の役割とは何かについてこどもの発達と親の育ちの諸テーマを、発達心理学研究の知見を学びながら心理臨床学的支援の在り方について考えていきます。まずはこどもと親を知る（理解する）ことを通しての発達アセスメントや行動観察、心理面接を学び、その上で支援を組み立てていくプロセスを共に学べたらと思っています。

留学生が小学校で講演

パワーポイントを使って台湾について紹介します。

7月13日（水）、永利小学校において開催された『元気塾』に、本学の台湾からの留学生7名が講師として招かれました。『元気塾』とは、県内外で活躍している方々のものの見方や考え方、生き方に学び、自分の可能性を信じて夢を追い続けることの素晴らしさに感動したり、学ぶことや働くことの意義について深く考えたりすることを通して、自分の将来をみつめ、夢や希望をふくらませる機会とするものです。

留学生達は5・6年生141名を前に初めは緊張した様子でしたが、この日のために準備したパワーポイントを使って紹介しました。台湾の地理、伝統文化（お正月）、8つの国立公園、食べ物など、流暢な日本語での説明に、永利小学校の先生方も驚かれたようです。質問タイムでは留学生のアイデアでお菓子のご褒美があり、児童の皆さんもリラックスして積極的に発言してくださいました。

最後は児童代表に「国立公園やタピオカミルクティーなど、台湾の話を聞いて行ってみたいと思いました。今日はありがとうございました」との言葉をいただき、花束を贈られました。

留学生達は2～3週間前からパワーポイント作成、司会者、プレゼン担当と、分担して準備を進めてきました。難しい文章も簡単な言葉に変えて分かってもらえるよう工夫したり、皆で集まって何回も練習したり、日本語を学ぶ留学生にとって大変貴重な経験となりました。留学生達は「とても楽しかった。ありがとうと言ってもらえて感動しました」「こどもたちが手を振ってくれて嬉しかった」と話してくれました。

このような機会を与えていただき、感謝申し上げます。

卒業生からのメッセージ

中国に日本語講師として派遣された卒業生に取材しました。

亀田　かおりさん
平成20年度 国際人間学科卒業
（鹿児島学芸高校出身）
赴任先：常熟理工学院（中国）

Q赴任することになったきっかけは？
A恩師からの紹介と薩摩川内市のご協力

本学の田原先生からお聞きして、常熟理工学院からお招きいただいたのが、薩摩川内市と友好都市を締結しており、関わりの深い土地です。

田原先生を始め、薩摩川内市の多くの方々から常熟理工学院への赴任に関するご協力、ご助言をいただき、日本語講師として採用していただくことになりました。

Q本学で身に付けたものは何でしょう？
A『英語力』『コミュニケーション能力』『忍耐力』

素晴らしい先生方のご指導の下、実際に使える英語力、英語でのコミュニケーション能力、事に対しても最後まで諦めない忍耐力を身に付けました。本学で身に付けたことは、今後の私の生活に全て活かせると思います。

Q今後の目標・展望は？
A中国で日本語講師として頑張ります！

常熟理工学院で多くの学生に日本語や日本文化を楽しく学んでもらえるように努力していきます！

薩摩川内市
常熟市
友好都市締結20周年

常熟市長を始め、友好団の方々が本学に来校されました。

社会人学生紹介

社会人の経験を経て本学に入学した学生に取材しました。

前田　久美子さん
健康栄養学科4年
《経歴》病院勤務
栄養教諭（臨時）

Q大学で勉強しようと思った動機は？
A一生の強みになる管理栄養士を取得したい！

仕事を始めて、自分の勉強不足を感じ、もう一度学びたいという意欲が湧いてきました。また、今後働いていく上で管理栄養士免許を取得することは一生の強みになると思い、大学で学んで国家試験を受験しようと決めました。

卒業研究ゼミの仲間

Q本学を選んだ理由は？
A鹿児島純心女子短期大学で親身なサポート

鹿児島純心女子短期大学に在籍して、本学に入学しました。

本学は、管理栄養士として病院や施設等で働きたいと考えています。

疾病を抱える方々に健康へのサポートができ、食事を通して毎日の生活に楽しみや喜びを与えられるような仕事ができるようになりたいです。

Qこれからの目標・展望は？
A健康のサポートが出来る管理栄養士を目指しています！

卒業後は管理栄養士として病院や施設等で働きたいと考えています。

疾病を抱える方々に健康へのサポートができ、食事を通して毎日の生活に楽しみや喜びを与えられるような仕事ができるようになりたいです。

姉妹在籍学生紹介

～ことばと文化学科～

姉妹で同じ学科に通う学生に
本学で学ぶ魅力を取材しました。

姉
門松　美歩さん
ことばと文化学科2年
（伊集院高校出身）

妹
門松　美咲さん
ことばと文化学科1年
（開陽高校出身）

Qお姉さんが本学に興味を持ったきっかけは？
A英語が好きだったから。決め手は高い就職率！

もともと英語が好きだったので、英語を勉強したいという思いがあり、一番に候補として挙がったのが本学でした。本学は就職率も良く、少人数制の授業ということが決め手になりました。

Qお姉さんが本学に興味を持ったきっかけは？
A英語を学んで夢を見つけたい！姉の存在も大きな理由

私は将来の夢がはっきりと決まっていなくて、大学へ行く気は全く無かったのですが、英語が好きだったので、国際交流に大切な英語力を付けて4年間で夢を見つけようと思ったからです。姉が在学しているというのも大きな理由の一つです。

Qお姉さんと一緒の大学に通うメリットは？
Aアドバイスをくれる良き先輩

大学に入学当初、履修登録のことなど慣れないことが多かったので姉に聞きました。悩みなどはあまり相談しませんが、大学についての小さな不安などを、時間を気にせず話せます。

Qご両親はどう思っていらっしゃるでしょうか？
A誇りに思い、応援してくれる有難い存在

二人同時に大学に通わせるのは楽ではないのですが、二人とも楽しく通っているので応援してくれています。また、本学は素晴らしい大学なので、安心して通わせられるし、誇りに思っていると言ってくれています。

研究室探訪（ラボツアー）

財団法人かごしま産業支援センターによる、産学官連携サポーター設置事業の「平成23年度第2回ラボツアー」が行われました。

産学官連携とは、大学などの教育機関や研究機関が企業と連携し研究開発や事業を行うことです。今回は、地域企業を中心に約50名の方が本学健康栄養学科の中野隆之教授の研究室を訪問され、交流・情報交換が行われました。

当日は、中野教授の「食品、食品残渣及び未利用資源の機能性を重視した有効利用」と題して数多くの事例紹介に関する講演がありました。中野研究室では、鹿児島の地域資源、特に農・水・畜産物およびその廃棄物の有効利用を図り、それぞれの食品の機能性を明らかにする研究や、特化された機能性をベースとした新規食品の開発に取り組んでおり、未利用資源について新規機能性食品としての可能性について検討しています。

講演の質疑応答では、企業の方からの質問が相次ぎ、その地域に根ざした地域資源を活用した商品開発に皆さんが強い関心をお持ちなのが分かりました。産学官連携により、効率的な研究開発、経営革新がスムーズに行われ、大学での研究成果が地域企業の発展に貢献できるよう、今後さらに連携を強めていければと思います。

妹：美歩さん
ネイティブの先生との会話も積極的に。

妹：美咲さん
前期最後の授業では達成感での笑顔。

研究成果を受けて、でき上がった食品, 飲料, 化粧品を体感しました。

『高等学校との教育連絡会を開催』

高等学校との密接な連携の下に、教育計画や教育方法の改善を通して、大学教育の質の向上を図る目的で、9月28日（水）に教育連絡会が開催されました。

本学の就職状況やキャリア教育についての説明の後、「大にこう期待する」のテーマで意見交換会が行われ、高等学校の先生方から、本学に対する要望や質問等、貴重なご意見をいただきました。

また、授業見学後に行われた懇談会では在学生も参加し、高校時代にお世話になった先生方との再会を懐かしむ声がある中、大学での近況や将来の目標などについて懇談し、会場は大変和やかな雰囲気に包まれました。

活発な意見交換が行われました

和やかな雰囲気の中での懇談会